

## みんなでつくる田名の会 第9回企画会議 議事概要

日 時：平成18年11月10日（金） 午後7時～午後9時30分

会 場：田名公民館 小会議室

### 1 取組みテーマ「災害に強いまちづくり」について

防災対策ワーキンググループより、防災対策ワーキングの議事の内容について説明があった。防災は他人任せではなく自助努力が必要であること、災害の際、自分は何ができるのかを明確にするため、テーマ「災害に強いまちづくり」及びサブテーマ「自分の身、財産は自分で守る」を設定したが、サブテーマ「自分の身、財産は自分で守る」について、個人主義的な誤解を招く恐れがあるなどのことから、再考の提案があった。

主な意見は以下のとおり。

- ・このサブテーマはわかりやすいので、このままで良いのではないか。
- ・「自分」とは「個人」と読み替えられる。お年寄りや子供なども、自らの身を自らで守れというのか。隣の人のごことはどうでも良いのか。
- ・「自分で守る」のであれば、会議に出ずに自分で考えたら良いだけではないか。
- ・災害時には、まず自分自身、家族を守るもの。これは当然のことであるから、第2段階になったときのことを考えるべきである。
- ・常に居場所を明確にするなど、近所付き合いなども含めて、自分の身は自分で守るということ。このことを広報紙などで伝えていけば良いのではないか。
- ・実態から考えて、災害時の自分の水を確保しているのか。他人を頼るな。まずそこから考えて欲しい。
- ・ボーイスカウトのモットーに「そなえよつねに」とある。まさにこれが応用できる。
- ・田名の街全体が、どの家庭でも自分の飲み水を備えていたりすれば、立派な街になる。そういう意味でも「個人」がしっかりせねばならない。

以上の意見交換のあと参加者全員よりテーマ案を募り、全員で検討した結果、テーマを「災害に備えるまちづくり」とし、サブテーマを設定しないこととして次回全体会に諮ることとした。

### 2 災害に関する地域課題への対応策について

#### (1) 災害時の飲料水確保と井戸水活用について

全体会、企画会議で示された災害時の飲料水の確保と井戸の活用について、相模原市の防災計画における応急給水対策等に関し説明があり、災害時の水問題について意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・市の防災計画に基づき水が確保できていれば、飲料水の心配はないのではないか。
- ・湧水については、地主の了解を得て、「緊急時生活用水」などと掲示しても良いのでは。
- ・どこに行けば飲料水があるのか、田名小学校にしかない、ということを広報すべき。

情報紙に啓発的な情報提供を行う。 災害弱者の方々への支援策を考える。 湧水については当面検査をせずに、生活用水としての活用を考える。

## (2) みんなで取組む事業案の概要

### ア 地域への情報提供、意識啓発活動について

地震から身を守るための地震発生時の行動パターンについて、穴埋め問題形式にしたチェックシートを使用し、企画会議メンバーで地震発生時の知識の確認を行った。

田名地域の各家庭に地震発生時の行動チェックシートを配布し、各家庭で実際に解いてもらうことで、災害時の行動に関心をもたせることができるのではないかと。

- ・田名の各地区で市と防災協定を結んでいる企業のリストが欲しい。近くの企業で、我々の身を助けてくれる企業がわからない。
- ・地域で独自に防災協定を結んだ場合、保険や補償をどうするのか。
- ・企業も災害に遭っているのに、実際に機能するには時間がかかるのではないかと。

田名地域で市と防災協定を結んでいる業種・会社名については、総務で調査することとする。

### イ 防災体験等事業の実施について

- ・防災訓練については、相模原災害ボランティアネットワークが協力して、市内各所で行われている。田名地域でも開催してみたい。
- ・企業・団体の協力次第で内容は変化すると思うが、実行委員会を組織し、親子で宿泊訓練としてやってみたい。

具体的な内容については、災害対策ワーキングで検討し、全体会に諮って承認を得ることとする。

## 3 情報紙「みんな」について

情報紙ワーキンググループより、情報紙ワーキングの議事の内容について説明があり、情報紙の編集方針等について意見交換を行った。

- ・情報紙の裏面に、次回の全体会の日程を入れられれば理想的であることから、発行回数については年4回を目標とする。
- ・編集会議の招集者については、代表でなく編集長とすることとした。

## 4 その他

- ・宿泊防災訓練の実行委員については、組織する際に、どのような団体・企業を入れるのか、話し合ったほうが良いのではないかと。

全体会で組織する旨を発表した上で、企画会議で検討する。

- ・この会でも「田名のあすを拓く委員会」のような看板を作ってみるのはどうか。  
事業などがしっかり固まってきたときに、検討する価値があるのではないかと。

- ・総務が大変になってしまうので、2～3人の補佐役を見つけたい。

企画会議メンバーからではなく、新たに探すこととする。

以上